

一 天山^{テンシヤン}々脈

天山山脈は葱嶺のキジルヤード達坂より起り、蜿蜒東方に走りて、哈密の東方約六十里、鹽池山に至つて止る。東西約七百五十里に亘り南北約四十乃至八十里に出入す其の間、正幹分枝、錯雜紛糾、起伏重疊して無數の峯巒壑谷を形成す。蓋し此の山脈に屬する諸山は多く巍峨たる峻峯峻嶺を成し、高度概ね海拔一萬四五千、若くば一萬七、八千尺、其の最も高きは、二萬數千尺に達して、遙に雪線の表に出で、頂上常に千古の積雲を戴き、盛夏尙ほ且つ消えず。故に支那人は白山又は雪山の名を以て之を總稱せり。

白雪は貴重
の天惠

此の皚々たる白雪こそ、實に新疆人民の最も貴重なる天惠たらずんばあらず。何ぞや曰く、新疆は極めて降雨少く且つ淡水泉に乏しき土地なるが故に、日用の飲料水は固より、田畝の灌漑等一に融雪に依るの外、途なければなり。

天山々脈の東部には海拔八千乃至一萬尺以上の高峯多く配列し、就中博格多鄂拉^{ボクトラ}山の如きは崇巖の山形を以て特に名高く、此の部には數條の山路開通するもの有りて、其の一は吐魯番より烏魯木齊に達するもの、即ち南北兩路を連繫する所の官

天山各部
の交通路